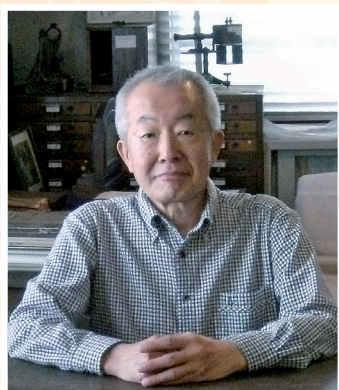


仁科芳雄博士生誕日記念科学講演会

世界一となった理化学研究所のサイクロトロン

ー仁科芳雄博士のサイクロトロンから世界最大の超伝導サイクロトロンへー



講師

仁科記念財団常務理事
理化学研究所仁科加速器科学研究センター特別顧問

矢野 安重 博士

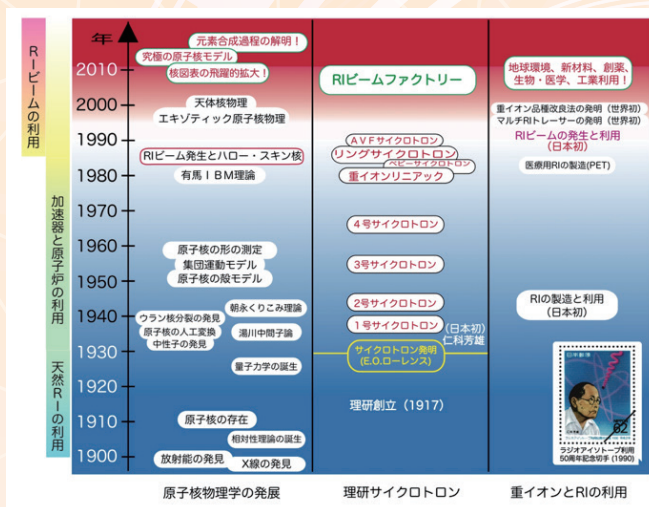
プロフィール

東京大学大学院で理学博士を取得後、1979年、理化学研究所に入所。以来、大型のサイクロトロンの建設に従事。2007年には、世界最大の超伝導サイクロトロンを完成させた。このサイクロトロンを擁する「放射性同位元素 (RI) ビームファクトリー」は世界一の「元素変換」能力を誇り、原子核の研究でいまや世界のメッカとなっている。初代仁科加速器研究センター長。これまで様々な角度から仁科芳雄博士の研究を展開しており、講演、取材等多数。

講演概要

年表は、仁科芳雄博士が日本初のサイクロトロン (理研1号) を建造してから現在のRIビームファクトリーへと綿々と続く理研のサイクロトロン建造技術の進歩を軸に、サイクロトロンの研究対象である原子核がその放射能の発見以来どのように理解され、どのように利用されてきたかをスケッチしたものです。

RIビームファクトリーでは、かつて建造不可能と思われた「超伝導リングサイクロトロン」が世界で初めて実現しました。この次世代の重イオン加速器施設は、天然に存在しない原子核を人工的に発生させる能力が世界に冠絶しています。この施設の誕生によって、原子力を生み出すウランが宇宙でどのようにして生まれたかという「元素の起源」の解明や、そのウランを原発で燃やすとできる廃棄物のやっかいな放射能を低減化する研究がはじめて可能になりました。



日時

令和元年 **12月13日** (金) 14:00~15:15

会場

里庄総合文化ホール「フロイデ」電動中ホール

公益財団法人

主催 科学振興仁科財団・里庄町・里庄町教育委員会